

会報
藤井寺市観光ボランティアの会

〒583-0024 藤井寺市藤井寺 3-1-20 (アイセルシュラホール 藤井寺市観光協会内)
TEL : 072-979-7881 FAX : 072-952-7806

藤井寺 観光 ボランティア 検 索



第 27 号 2024 年 1 月

◆ << 令和 6 年 年初に向けて >>

藤井寺市観光ボランティアの会 会長 坂谷 義彦

日頃より当会の活動にご支援、ご協力を賜り誠にありがとうございます。
我々の所在する当地が念願の大阪初の世界文化遺産登録を実現してから早くも 4 年が経過しました。

この間、もろに新型コロナウイルスによるパンデミックの影響を受けましたが、行動制限の無い平常活動に移行してほぼ 1 年が経過しました。しかしながらお客様も我々の活動も恐る恐るの感を否めない 1 年であったかと思えます。

ここにきて、双方の動きが本来の状況に戻りつつあるのが現状かと思えます。この間に受けた影響は大きく我々のガイド活動も鈍ってしまったというのが現状かと思っております。これを早急に立て直していかなければならないと実感する今日この頃です。

その為には少しでも多くの経験を積むことが大切な条件と思い、お客様には不満足な面が出るかも知れませんが、何卒ご容赦いただきまして、立ち直る時間をいただければと思っております。引き続き皆様のご支援ご協力をよろしくお願い申し上げます。

◆ 大阪・奈良 歴史街道リレーウォーク

12 月 2 日、朝からの快晴。58 名の参加者のみなさんもスタッフも気分上々です。

道明寺天満宮の宮司さんから、道明寺が土師氏の本拠地であり、世界遺産百舌鳥古市古墳群の担い手として活躍したことを解説していただきました。また、浅草神社の例を出し、全国にその足跡を残しているとお話しされますと、「ほー」と声があがりました。

午前中は、菅原道真公由来の国宝を拝観した後、台地上に並ぶ古墳群を巡りました。

午後からは、まず、アイセルシュラホールの展示室の見学です。古墳時代の様々な出土物や土師氏由来の円筒埴輪棺や古墳造りの村の様子などが紹介されました。また、秋晴れの空にシュラホールの姿がすっきりと美しく、写真撮影を楽しまれる方も多かったです。

リレーウォークは、各地域でボランティアガイドをしておられる方も大勢参加されており、あちらこちらで歴史談義に花が咲く、楽しい一日となりました。(小田島)



◆ これからの当会の催しとお知らせ

詳細は当会 HP⇒



- ◎梅まつり 2 月 10 日～29 日 奉納俳句の締め切り 2 月 20 日迄
- ◎春季ウォーク 2 月 18 日 (日) ◎藤まつり ◎郷土の歴史講座

ホームページを立ち上げてから 14 年が経過しました。藤井寺市の魅力を伝え、多くの方に訪れてもらうよう、ウォークモデルコースやナイスビューなどの充実、見やすいページづくりを行ってきました。最近、情報入手の手段は驚くほど変化し、多様化しています。そのため、いまの藤井寺市を、いまの世界文化遺産古市古墳群の風景を、生き生きと伝えたいと思っています。また、ガイドマップに QR コードを付して、ホームページを気軽に見てもらい、再び藤井寺市を訪れてみたいと思う人を増やす工夫も行いたいと思っています。ホームページの原稿依頼や写真提供をお願いすることがありますので、皆さまのご協力、よろしくお願い致します。

◆ イベント部活動報告

観光ボランティアの会でイベント部が行っている二大行事は、葛井寺での藤まつりと道明寺天満宮での梅まつりです。この3年ほどの間、コロナ自粛のため活動を制限してきました。

今年の春はコロナも下火になってきた様子なので、あまり密にならない範囲で新しいことに取り組みました。

葛井寺境内の観ボラのテント横で行った「とべとベルカ」の紙芝居です。主人公のルカは白い蝶なのですが、この話は「井真成」の生涯を題材にして作成された童話です。見ると当時の様子や遣唐留学生について思いを描くことができます。

紙芝居を行っているところには「まなり」くんも登場し、お参りの皆さんと一緒に藤の花の下で写真を撮ったり握手したりと大活躍でした。来年2月には道明寺天満宮で梅まつりを行う予定です。観ボラのテントでは、境内の案内や周辺の古墳の説明などを行います。

また、テントの横には俳句の投句用紙と投句箱を設置します。是非、足をお運びください。(松村)



◆ 唐櫃山古墳発掘説明会

9月18日、敬老の日に唐櫃山古墳の発掘説明会が行われました。受付を済ませると目の前に家型の石棺が展示してありました。盗掘で蓋の部分が4分の1ほど欠けているが綺麗に保存されています。允恭さんの外堀に続く「渡り土手」を右手に見ながら現場に進み、後円部の大ぶりな20cm程の葺石や、後円部と前方部に据えられていた円筒埴輪列がよく見える「イイ場所」を確保！

発掘の経過を文化財保護課のI氏が説明されていく。前方部の幅が予想より大きい約14mになることが確認されたと説明されました。後円部と前方部の埴輪の交点の所が、昭和30年の府道大和高田線開通工事によって後円部の南半分を東西に削平された現場と判ります。

いつも発掘作業を柵越しに見ていたのですが、やっと中に入って専門家の説明を聞くことができました。近代の開発で「沢田の七ツ塚」の多くの古墳が壊されていった現場を間近に見ることができてチョット興奮した現地説明会でした。(森芳)



◆フィールドワークを終えて「世界遺産学習」

これは「世界遺産登録を目指す藤井寺市に住む小学生たちに、わが町の世界遺産候補（2019年に登録されましたが…）を実際に歩いて学習してもらおう」と企画され始まった全国でも例を見ない全市挙げての教育活動です。しかしコロナによる中止が続いてやっと今年再開されました。これは新規に実施するのと同じことでした。「何をどう話したらいい？」「集合解散場所はどこ？」「ルートは？」など。加えて相手は学校だけに異動してきたばかりで経験がないという先生も多かったです。



こういう状況にもかかわらずメンバーの皆さんが適切に定点ガイドをしてくださり、どの学校（今回は道明寺中も加わって）もスムーズなフィールドワークを実施することができました。遺漏なく実施できたのは日頃培ったわが会のチームワークのお陰と感謝いたしております。

薫風に吹かれてさっそうと歩きまわる子どもたち、驚くくらい鋭い質問をする古墳好き少年、少女…

忘れられない春となりました。（森康）

◆今井町散策と檀原考古学博物館

11月16日（木）に現地研修会「今井町散策と綏靖天皇陵、神武天皇陵、檀原考古学博物館見学」を行いました。参加者は23名でした。

ガイドを檀原市観光協会にお願いし、3班に分かれて見学しました。今井町は、現在も500軒もの町家が江戸時代以来の伝統様式を保ち、美しい街並みを形成していました。旧米谷家、今西家、環濠跡などを見学し、最後に今井まちなみ交流センター（華薨はないらか）で今井町の歴史を学びました。

綏靖天皇陵、神武天皇陵では陵作成時の話を聞きました。ガイドさんは3人ともベテランのガイドさんで造詣が深く学ぶところが多かったです。特に、3人がお互いをリスペクトし合っている様子が良く分かり、ガイド時はかくあるべしと思いました。

檀原考古学研究所附属博物館前の修羅石前でガイドさんとお別れし、昼食後各々入館し各自の興味に応じて見学しました。特別展「太安萬侶」はさすがに檀考研、資料をよく集めておられて、太安萬侶像がよく分かりました。（塩尻）



◆さあ！国境を守ろう！アレはどこに？

みささぎ国境防衛隊

国境紛争が頻発している今だからこそその緊急テーマです。全行程 35,000 歩 25KM、4回にわたってのツアーです。最終回はおさらいもかねて自転車だけのフルコースも用意しました。延べ54人の参加をいただきました。

実施にあたり国境（あえて市境といわない）を特定するのが一苦勞・二苦勞、藤井寺市のマップ・住宅地図・グーグルマップを併用したり、不明な場合は各家庭の表札を確認したりで、八尾市と藤井寺市の間を見極める際は車庫のカーナンバーを確認（八尾は大阪ナンバー藤井寺市は和泉）他人様（ひとさま）の庭に侵入しておこられたりと…、シツチャカメツチャカの連続でした。

一番苦勞したのが市の北西部にあたる藤井寺高校・アマゾンのあたりで水路・畑のドマンナカは草ボウボウで歩くのもままならず、本番のときは不本意ながらコースを外れ大廻りするしかありませんでした。

各回とも一万歩前後の距離ですが参加者全員が完歩できました。（山口）

◆ 弘法大師御休石の改修

藤井寺市道明寺にある蓮土山道明寺から東高野街道を南へ約 200m の道沿いにあった、弘法大師御休石は令和 5 年 7 月に改修されて披露されました。それまでは古い祠の中に据えられていましたが、祠の痛みがひどいため、道明寺まちづくり協議会が改修部会を設け、周辺の住民の寄付金を得て工事を終えることが出来ました。

御休石は祠の中で縦に立てられていましたが、横に寝かせて座ることができるようになりました。また祠を設けずに露天に置いて将来の管理が必要ないようにしました。

改修を機会にこの“石”の調査をしたところ、様々ことが分かってきました。御休石を祀っていた「大師講」はすでに講員が減少して十数年前に活動を停止していましたが、元講員が保管していた帳面によると、200 年前のものが残っており長い間活動されたことが分かりました。“石”は南河内郡河南町平石谷から切り出された花崗岩と推定されました。一方江戸時代の絵図に御休石と思われる“石”の記録が発見されました。今から 250 年前の「河内道明寺絵図」では古代道明寺の門前に「御門前大師御立石」が描かれ、そして 350 年前の「河州志紀郡道明寺絵図」ほかでは「不動石橋」が今とほぼ同じ場所に描かれています。現在の“石”の片面はすっかりすり減っており、石橋として利用された痕跡が残っています。

“石”は長い間石橋として利用された後、弘法大師の「御立石」としてあがめられ、そして「御休石」となって祀られてきたことが分かりました。

東高野街道の生き証人である御休石に、往時を偲びながら腰かけてみませんか・・・(鈴木)



大井という村の物語 8

樽野 優 エッセイスト

大井という村に「文化」はあるとお思いですか。

「文化」というほどのものではないと思いますが習俗というものはあります。

私がまだ若かったころ、大井志疑神社の境内で催される盆踊りは、前半午後 8 時くらいまでは子供向けの、例えば「ドラえもん音頭」などで、それが過ぎると大人向けの音頭が始まります。当然メインは河内音頭です。

しかし、そこでとりあえず詠われるのは「ジャイナ節」という音頭で、後に「河内の音頭」研究家の村井市郎先生の著書、『河内の音頭いまむかし』（平成 6 年八尾市刊）で知ったのですが、この「ジャイナ節」という音頭は、村井先生の研究によれば実は大井という村にしかない音頭だったそうです。一説には船橋にもあったと言われていたようですが、今は定かではありません。

ところが令和になり、とっくの昔に滅んだと思っていた「大井ジャイナ節」は実は滅びていなかったことが判ったのです。ある日長男と酒を飲みながら、「昔、大井に「ジャイナ節」という音頭があった」という話をしていると彼がスマホで「太田ジャイナ音頭」を見つけ、大井の川向こうの八尾市太田地区に「太田ジャイナ音頭保存会」が伝承していると教えてくれたのです。

そして、八尾市植松に居を構える「ヤンレー節河内音頭」家元の鳴門家寿美若師匠の弟子で鳴門家ひろしさんという音頭取りが「太田ジャイナ音頭」を継承されていて、今も八尾市内では広く歌われ踊られているそうです。興味のある方は「太田ジャイナ節」あるいは「太田ジャイナ音頭」で検索してみてください（YouTube 動画で見られます）。

（「大井という村の物語」は、今回で終了します。長い間ご愛読いただきありがとうございました。筆者）